

平成23年度継続事業に関する継続評価書

研究機関 : 株式会社日立製作所、富士通株式会社、慶應義塾大学
: クラウドサービスを支える高信頼・省電力ネットワーク

研究開発課題 ク制御技術の研究開発
(環境対応型ネットワーク構成シグナリング技術)

研究開発期間 : 平成 22～24年度

代表研究責任者 : 高瀬 晶彦

■ 総合評価 : 適

(総論)

- 順調に研究開発が実施されており、引き続き研究開発を推進することが適当。
- 標準化に向けた取組を今後も重視するとともに、実用化に向けて通信事業者と議論することが適切である。

(コメント)

- 標準化への取組が重要であり、これまでも取組がある。今後とも重視されたい。
- 実用化のための評価に向けて、他の事業者との会話を進めていただきたい。
- 大きな問題は特になさそうに思われる。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 7点

(総論)

着実に計画が進められており国際標準提案等の成果等が認められる。

(コメント)

- ネットワークとサーバを総合的にとらえるという考え方が先進的である。
- 高信頼クラウドサービス制御基盤技術との協調のことも念頭に置きながら計画を進めている点は評価できる。
- 当初予定していなかった ITU-T 等の国際標準に関する成果が出ている点は評価できる。
- 研究発表数も、当初予定を上回っている。
- リソース連携シグナリング技術のリソース管理方式について、集中方式とあるが、耐障害性を実現する工夫を考慮し、その上で分散化させることの是非について検討すると良い。
- リソースマネジメント技術の適応型リソースマネジメント技術について、スリープからの回復にかかる時間や、複数ポートで共有しているハードウェアチップ等の扱いも考慮したリソース管理方式や、ハードウェア設計についても検討すると良い。また、省電力リソース設計技術について、一般性のある最適な省電力ネットワーク構成というものが提示できるのであれば、社会に提案、普及していくことも検討すると良い。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 8点

(総論)

効率的な予算執行が心がけられていると認められる。

(コメント)

- 変更は軽微であり、理由が明確である。

(3) 研究開発実施計画

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 7点

(総論)

実行可能かつ効率的な計画である。

(コメント)

- 実行可能かつ効率的という観点で十分である。

(4) 予算計画

(SABCD の5段階評価) : 評価 B

評価点 : 6点

(総論)

特に問題はなく、効率的かつ妥当な予算計画である。

(コメント)

- 効率的かつ妥当である。

(5) 実施体制

(SABCD の5段階評価) : 評価 B

評価点 : 6点

(総論)

特に問題はないが、今後の連携に向けた取組が重要。

(コメント)

- 連携のための統括会議が今後は重要になる。
- 各担当組織間の技術開発内容における密な連携がもう少し見えてくると良い。